

宮城総合支所管内の将来に向けて

○現状

宮城地区管内における推定人口(各年度10月1日現在)
平成元年以降、一貫して増加しているが、近年、増加が落ち着きつつある。

| | 人口 | 対元年比 |
|-------|---------|--------|
| 平成元年 | 33,643人 | — |
| 平成10年 | 55,047人 | 163.6% |
| 平成20年 | 66,118人 | 196.5% |
| 平成30年 | 73,399人 | 218.2% |

・宮城地区管内の年代別住民基本台帳人口(平成30年10月1日現在)
15歳以下の若年人口の割合は、全市平均より高い。

| | 宮城地区 | | 全市 | |
|---------|---------|--------|------------|--------|
| | 人口 | 構成比 | 人口 | 構成比 |
| 15歳以下 | 11,950人 | 16.1% | 143,178人 | 13.5% |
| 16歳～64歳 | 44,769人 | 60.4% | 670,221人 | 63.1% |
| 65歳以上 | 17,424人 | 23.5% | 248,724人 | 23.4% |
| 合計 | 74,143人 | 100.0% | 1,062,123人 | 100.0% |

- ・落合、栗生、愛子地区には、店舗・クリニック・事業所などの集積が進んでいる。
- ・仙山線と国道48号線が地区中央部を横断しており、交通の便が良く住みやすいが、国道48号線については仙山交通の動脈であり、慢性的な交通渋滞が問題になっている。
- ・一方、作並・新川地区、熊ヶ根地区、大倉地区など西部地区の人口は、近年、減少の幅が大きくなっている。対して65歳以上の高齢化率は年々上昇を続け、現在は約42%となっている。

| | 人口 | 対元年比 | 高齢化率 |
|-------|--------|-------|-------|
| 平成元年 | 3,794人 | — | 14.8% |
| 平成10年 | 3,758人 | 99.1% | 21.8% |
| 平成20年 | 3,258人 | 85.9% | 31.0% |
| 平成30年 | 2,544人 | 67.1% | 41.9% |

※上表の人口は、作並・新川・熊ヶ根・大倉の合計である。

- ・こうした現状を踏まえ、更に宮城総合支所管内エリアが発展していくことを期待し、将来に向けて以下に課題を示す。

①総合支所の機能強化

- ・人口7万人を超える地区を所管する総合支所として、平成30年度に保健福祉機能の強化を図り、保護業務を担う管理課を新設するとともに、保健福祉課の業務を拡充。今後も市民サービス拡充のため、さらなる機能強化が必要。
- ・老朽化している宮城総合支所の将来的な建て替えが必要。

②宮城総合支所管内のまちづくりの主な施策

- ・人口急増地区がある一方、作並・大倉地区など西部地区では人口減少と高齢化が進行していることから、地域課題に応じたきめ細かな対策を講じる。
- ・みやぎ台・吉成・国見ヶ丘等の郊外住宅の公共施設の経年劣化に対応し、適切な維持管理を図る。
- ・仙山交流の玄関口としての起点づくりを進める。
- ・国道48号線の複線化とともに、道路拡幅整備を図る。
- ・仙山線及び国道48号線から離れた地域における交通問題について、地域交通システムの導入なども含め、広く対策を検討し、利便性の向上を図る。
- ・防災・防犯など安全安心の確保、高齢者への在宅支援の充実を図る。

○落合・栗生・愛子・錦ヶ丘等の周辺地域

- ・愛子駅から宮城総合支所周辺の一帯については、宮城地区の中心にふさわしいまちづくりを念頭に、計画的な整備を図る。
- ・当地域の人口増加を踏まえたコミュニティづくり、若い世代が安心して子育てできる環境整備を図る。
- ・交通の利点を活かした良好な住環境づくり、秋保・愛子・泉を連絡する環状線の整備促進を図る。

○西部山岳丘陵地域

- ・人口の減少、高齢化の進行に歯止めをかけるため、地域の魅力や暮らしやすさの向上を図り、地域の活性化を図る。
- ・作並温泉や奥新川をはじめとする豊かな自然、定義如来などの名所旧跡といった西部地区の地域資源の更なる魅力向上を図る。

③未来型教育の開発と人材育成

- ・少子高齢化時代には一人一人の子供が、将来の日本を背負って立つ人材として育つことが必要。
- ・義務教育から自分を磨き、強く生き抜く力を持つ児童生徒の育成を貫く。
- ・児童生徒数の減少が進む西部地区の学校について、再編も含めた抜本的な対策を講じ、より良い教育環境の構築を図る。

○思いやりのある児童生徒(豊かな心)

- ・あらゆる場で豊かな心と、ともに高め合う実践と発表により、自身と実力の育成。
- ・体験活動・交流活動を通して、「思いやりの気持ちを持ち、温かい心で考え行動できる児童生徒」が子供社会の常識へと進化
- ・学校と家庭の子育て意識の共有と指導の共通実践(家庭と学校の信頼関係の醸成による密接な連携と対話、実践発表会)

○つながりのある学校づくり(家庭・地域社会との連携)

- ・地域の人材等の積極的な活用と、地域から学ぶ教育活動の推進(学校では得難い新鮮な学習の場づくり、活用・探求の学習の重視)
- ・学校・地域社会での活動を積み重ね、発表を兼ねて地域行事への積極的な参加・協力
- ・自分づくり(自分への目覚め)教育の推進

④防災対策

- ・広大な地域に集落が点在していることから、大雨・豪雪や土砂災害等危険地域における円滑な情報提供や避難のあり方の検討
- ・防災拠点機能及び自衛隊等の災害対策拠点
- ・緊急物資の中継場所の設置
- ・緊急避難場所としての拠点づくり
- ・除融雪対象路線のアンバランス是正の必要性
- ・水害防止のための雨水・排水の整備

⑤地域医療

- ・西部地区は医療機関が少ないので、通院手段の確保が必要

⑥経済・観光関係

- ・ウイスキー世界最高位受賞のニッカ仙台工場、除染に活用されている仙台産ゼオライト、愛子地区松原工業地域の西部への大胆な拡大
- ・宮城地区の観光資源の魅力向上に取り組むとともに、泉、秋保との連携を強め、仙台市西部地域の観光を一体として盛り上げる。また、これに蔵王までの区域を含めた広域的な観光資源のネットワークを構築することで、更なる魅力の向上を図る。
- ・クマ、イノシシ、サル対策の推進
- ・耕作放棄地の利活用推進
- ・スポーツ産業の振興

⑦公園設備

- ・(仮称)中山台西公園の整備
- ・(仮称)愛子公園の整備
- ・サイカチ沼緑地の整備
- ・老朽化した公園施設の維持管理費及び再整備に関する考え方の整理

⑧道路整備

- ・市道愛子赤坂線等の既存市街地内の道路拡幅整備
- ・定義地区への安全安心な道路の整備(市道高畑定義線)
- ・狭隘橋梁の拡幅整備(向田団地代替路、落合橋)
- ・主要地方道定義仙台線の地形急峻区間の道路防災対策
- ・市道芋沢赤坂線等の交通ネットワークに資する道路の整備
- ・除融雪対象路線のアンバランス是正の必要性